



城西国際大学の6年制薬学教育



「遠くの大病院より、近くの頼れる薬剤師に！」

超高齢化と国際化が進む日本社会のこれからの地域医療を支えるために、主体的に行動できる薬剤師の輩出を目指しています。

従来の医療薬学のみならず、栄養、福祉、看護・介護、セルフメディケーションなどの幅広い専門知識と国際感覚を有し、あらゆるライフステージにある人々の健康に興味・関心を抱き、人々から信頼される、地域に根ざした薬剤師を養成します。

携帯サイトへ！



UCR-JIU Pharmacy Internship Program 2017

今年で8回目となる米国薬学研修（平成29年2月15日～2月28日）を本学姉妹校であるカリフォルニア大学リバーサイド校エクステンション（UCR Extension）で実施しました。エクステンションセンターを拠点とし、UCRメディカルセンター、UCRキャンパスやローマリング大学医学部附属薬局、ドラッグストア・調剤薬局（CVS/pharmacy, Target corp.）、医療関連研究施設（Sparsha Pharma International Pvt Ltd., Salk Institute for Biological Studies）を訪問しました。



交換留学制度 タイ王国・チュラロンコン大学薬学部へ留学

2015年度より、薬学部交換留学制度がスタートしました。タイ王国・チュラロンコン大学（1917年設立、タイ王国で最も古い歴史をもつ国立大学）薬学部 国際共同教育 社会薬学部門に兼田俊樹くん（当時5年）が約3ヶ月間（2017年1月10日～3月22日）の留学を行いました。



2018年度生 募集 大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程

城西国際大学 入試・広報センター TEL: 0475-55-8855 E-mail: admis@jiu.ac.jp <http://jiu.ac.jp/pharmacy/graduate/index.html>



本日は、交換留学制度によりタイ王国・チュラロンコン大学薬学部へ留学した兼田さんと、UCR-JIU Pharmacy Internship Program 2017に参加した荒瀬さん、小出さん、高田さんにお話を伺いました。

皆さんが、国際教育プログラムに参加しようと思ったきっかけは何ですか？

(兼田)大学生活の中でずっと、何かに挑戦したい！って思っていました。特に海外の医療制度に興味があったので、チュラロンコン大学薬学部への留学を希望しました。正直、英語がすごく得意というわけではないんですけど、海外で学びたいという気持ちが大きかったのが不安よりも期待ばかりでした。昨年留学した新村くんから、色々話を聞いて更に期待は大きくなりました。

(荒瀬)私も何かに挑戦したい！と思っていました。大学で実習や授業を受け、様々なことを学習していく中で、日本と海外における薬剤師や医療制度の違いに興味が出てきました。UCR-JIU Pharmacy Internship Program 2017に参加することで、今後、自分が目指すべきものについてのヒントが得られると思い希望しました。

(小出)目指すべきもの…、難しいですね。私は、薬剤師にこだわるのではなく、医療全体に興味があります。1つの職業だけではなく、全体を俯瞰して色々な可能性を考えてみたい。視野を広げるためにも日本以外の医療について学びたいと思い参加しました。

(高田) そうだね…、将来薬剤師として就職しても、自分の目指すべきものがないと、きつと日々の仕事をこなすだけになる気がします。だから、自分が目指すべきものをきちんと考え、行動することが大事だと思います！私も、将来に向けて視野を広げてみたいと思い参加しました。

(荒瀬)みんなきちんと参加した目的があるんだね。でも、兼田さんは今回の留学が初の海外なんですよ？いきなり3ヶ月の留学ってすごい勇気ですよね。

(兼田) そうでもないよ。大学の留学制度を利用できるから不安はなかったね。それと、1回目でも10回目でも不安なことは不安なんだと思う。大事なのは、初めてかどうかではなく「挑戦する気持ち」だと思うな。

参加するために準備したことはありますか？

(兼田) 僕の場合、タイ王国・チュラロンコン大学薬学部へ約3ヶ月間の留学だったので、やっぱり英語の勉強ですね。通学途中の電車の中で単語帳を見たり、TOEIC対策本を読んだり…、とにかく色々やりました。でも、途中からは単語や文法を覚えることよりも、とにかく「英語で会話すること」に重点を置きました。インターネットで英会話をしたり、タイからの交換留学生が本学薬学

部に来ている時期には、できるだけ英語で話しかけるようにしました。ずっと交換留学生と一緒にいたので仲良くなり、英語で話しかけることへの抵抗感がほとんど無くなりましたね。

(小出) 慣れることは大事ですよ！私も兼田さんと同じ様に、交換留学生とコミュニケーションをとったり、英語で授業を行うグローバルカレッジを受講したりして、とにかく英語を聞いて、英語で話す機会を多くするようにしました。

(高田) 私もグローバルカレッジを受講したんですけど、逆に自分の英語力が不安になっちゃって…。

(小出) たしかに、周りの人たちと自分を比較して自信がなくなることがあるよね。

(高田) そうなんだよね…。でも、自分で参加するって決めたから、最低限必要な英語は習得できるように、日々努力しました！きちんと準備をすることで、不安も和らいだ気がします。

(荒瀬) みんな、まじめだね…。私は、勉強って考えると気が向かないので、海外ドラマをみたり、アメリカで訪問する予定の施設についての情報をインターネットで調べたり、とにかく自分の興味をうまく利用して準備しました。

(兼田) それは良い方法だね！それと、英語以外の準備として、日本のことを正しく理解しておく必要があると思う。海外の医療について理解するには、日本の医療をより深く理解しておくことが大事だと思うよ。

国際教育プログラムに参加して、「何」を感じましたか？

(兼田) 僕は実務実習をすでに終え、更に事前に勉強してから出発したので、日本とタイにおける医療制度の違いについてすぐに理解できると考えていました。しかし、医療制度に限らず多くのことで日本と考え方や価値観が違うことに驚きました。そこに住む人たちの考え方や価値観は、本やインターネットの情報だけを鵜呑みにするのではなく、そこに滞在し、そこに住む人たちと直接話をする事で学べるものだと強く感じました。

(荒瀬) 私は、アメリカで訪問した病院やドラッグストアにおける医師や薬剤師などの医療従事者間の「距離の近さ」や、患者さんと薬剤師との「距離の近さ」を感じました。まだ実務実習を行っていないため日本の現状を理解できていない部分もありま

すが、日本とは少し違うものを感じました。(小出) たしかにそうだね。訪問したドラッグストアでは、健康な人たちも気軽に立ち寄っていたし、薬剤師から気軽に話しかけていました。アメリカには、ファーマシー・テクニシャンがいるなど制度の違いもありますが、日本よりも開放的な印象がありましたね。

(高田) 日本では、こちらが話しかけるとすごく親切に対応してくれますが、向こうから話しかけてくれることは余りない印象がありますね。

(兼田) う〜ん、どちらが良いとは言えない気がするな。話しかけて欲しい人もいるし、話しかけられたくない人もいるからね。それぞれの状況や立場、価値観に配慮したコミュニケーションを行うことが重要なんじゃないのかな。国によってもスタンダードに違いがあると思うよ。

(荒瀬) でも、多様性に対応するのは難しいですよな…。

(兼田) 大事なことは、相手を尊重することだと思うよ。考えが違う人は沢山いるしね。その上で、きちんと聞くことや伝えることが重要なんじゃないかな。海外に行くことで、外からみた日本を学ぶことができる。それによって今までの自分の価値観をリセットできると思うよ。リセットすることで、一歩下がって俯瞰し、より自己と他者を理解できるんじゃないかな。

まだ参加していない学生へメッセージをお願いします！

(荒瀬) 私は、患者さんから信頼され、患者の健康を守る薬剤師になりたいと思っていますが、今まで具体的なイメージがありませんでした。今回参加したことで、多様性に対応できるスキルが重要であることを実感しました。これから卒業までの間に多くを学び、少しでも成長してなりたい自分に近づいて行きたいと思っています。海外に興味がある人はもちろんですが、自分の目標が定まっていなかった人や将来について悩んでいる人こそ参加して欲しいと思います！

(高田) 英語は、伝わらなければ絵を書いたりジェスチャーで伝えることができるし、一緒に電子辞書を見ながら話しても良いと思います。もちろん、最低限の英語は必要だけど…。話しかけることや伝える気持ちが大事なんだと思う。英語の心配ばかりして参加しないのはもったいないと思います。海外に行くことで得られることが沢山あると思います！

(小出) アメリカの医療はすごく進んでいる印象を持っていましたが、日本と変わらない部分も多々ありました。その場所に行くことでしか感じられないものがあります。そして、得られるものは参加する目的によって変わると思います。視野を広げ、自分を見つめ直す良い機会になると思いますので、少しでも興味のある人は是非参加して下さい！

(兼田) 大学の留学制度は、受け入れがしっかりしているので臆することはないと思います。目的を持って踏み出すことから全てがはじまると思います。今は、インターネットなどで簡単に情報を集めることができますが、その場所に行くことでしか得られないものがあります。多様性を理解するには、自分の知らない世界を知ることが重要です。自分の限界を自分で決めるのではなく、自分に挑戦してみてください！



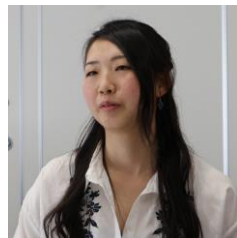
小出 恵未 (4年)
共立女子高等学校出身 (東京)



高田 万莉子 (4年)
千葉南高等学校出身 (千葉)



兼田 俊樹 (6年)
千葉南高等学校出身 (千葉)



荒瀬由璃華 (4年)
市立習志野高等学校出身 (千葉)